

創刊から累計で
昆虫類558種
その他176種
になりました!
※種名が判明したものに限る

湘南発 みんなでつくる! 生きものの図鑑

2020-21年 12月~2月版 冬

皆さんからの投稿写真を季節毎にまとめた、タイムリーな生きものの図鑑です。地域の生物情報の蓄積を図り、自然環境の保全に役立てたい、とのみんなの願いが詰まっています。
(対象地域: 神奈川県)

落ち葉の下の妖精
「マダモリ」の幼虫



※ この図鑑は編集部で作成しています。誤りが判明した場合は速やかに訂正いたします。
※ 同定は、同定者名の記載のないものは堀田佳之介が行い、わかる範囲内で性別や年齢を付記しました。
同定者名の記載のあるものは、各専門家の先生に同定していただいた写真です。

図鑑の見方 ① 場所 ② 年月 ③ 氏名 (危) 危険な生き物 外来 外来種 期間外 2020年12月以前の写真

昆虫網 トンボ目

オオアオイトンボの死体
① 平岡幼稚園 ② 2020年12月中旬
③ 堀田文之助

アオモンイトトンボ
① 平塚市南豊田 ② 2020年9月中旬
③ 石井律有

クロスジギンヤンマ幼虫
① 平岡幼稚園 ② 2021年1月下旬
③ 松浦優佳

アキアカネ♂
① 平岡幼稚園 ② 2020年12月上旬
③ 上野尚樹

ウスバキトンボ♀
① 平塚市中原 ② 2020年10月上旬
③ 石井律有

クビキリギス♂
① 平塚市中原 ② 2020年10月上旬
③ 石井律有

クビキリギス♂
① 平塚市中原 ② 2020年10月中旬
③ 石井律有

クビキリギス♂
① 平塚市大原 ② 2020年10月下旬
③ 石井律有

クビキリギス♀
① 平塚市岡崎 ② 2020年11月上旬
③ 石井律有

ヒメクダマキモドキ♀
① 平塚市豊田 ② 2020年11月下旬
③ 石井律有

ヒメクダマキモドキ
① 平岡幼稚園 ② 2020年12月中旬
③ 藤巻諒也

神奈川県版要注意外来種リスト
Bランク

アオマツムシ♀死体
① 平塚市北金目 ② 2020年12月上旬
③ 田川楓

オンブバッタ♀
① 平塚市大原 ② 2020年10月下旬
③ 石井律有

オンブバッタ♀
① 平塚市西真土 ② 2020年11月上旬
③ 石井律有

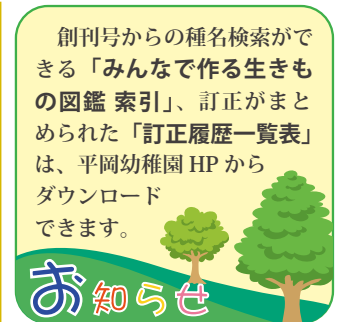
オンブバッタ♀
① 平塚市田村 ② 2020年12月上旬
③ 清水悠誠

オンブバッタ♀
① 伊勢原市三ノ宮 ② 2020年12月中旬
③ 高村葵一・耕太郎









神奈川県 生きもの写真募集!

一般の方からの投稿も大歓迎です。種名が分からなくても OK。写真と「いつ」「どこで」「だれが」を添えて下記アドレスまでお気軽にお送りください。 ikimono@hiraoka-kg.com

※ 見つけた生きものは、可能であればアングルを変えて複数枚撮影してください。種名の判別がしやすくなります。

※ 画像はリサイズせずにお送りください。



図鑑コーナータイトル横の累計種数の訂正

創刊号から 19 号までの掲載種数を再計算したところ、昆虫類は 558→555 種、その他は 167→166 種であることが判明しました。

今号より再計算後の種数を元にカウントして表記します。

地域の自然を知ろう! 守ろう! 伝えよう!

ひらおか ようちえん アクションレポート 冬

2020.12月～2021.2月

新型コロナウイルスの影響により、
残念ながら例年通りの活動ができない状況
ですが、地域の自然のために、各自ができる事を
できる範囲で、実践していきたいと思っております。

さがみ自然 フォーラム

今年は「紙面開催」とな
りましたが、平岡幼稚
園も参加しました。

「第20回 さがみ自然フォーラム」(主催:厚木市、
NPO 法人神奈川県自然保護協会)は、新型コロナウ
イルスの影響により、展示は中止となり、レジ
ュメ集の発行のみ行う紙面開催となりました。
レジュメ集には平岡幼稚園の取り組みが掲載され
ています。NPO 法人神奈川県自然保護協会 HP にも
PDF 版が公開されていますので、もしよろしければご
覧ください(平岡幼稚園は「B 神奈川で活躍する豊かな自然を、ま
もり育てる学校の仲間たち」のページに掲載されています)。

レジュメ集
ダウンロード先

NPO 法人神奈川県自然保護協会ホームページ
<http://www.7b.biglobe.ne.jp/ncs-kana/>



文献紹介

園児・卒園児が見つけた
昆虫の報告が、専門誌
『神奈川虫報』に
掲載されました。

卒園児が見つけた シロテンハナムグリ・シラホシハナムグリ

「県絶滅種」とされるシラホシハナムグリが
平塚市で多数発見されたことをきっかけに昨夏、
市内を中心とした分布調査を行いました。

その調査の結果が専門誌「神奈川虫報 第203
号」に掲載されましたのでご報告します。

シラホシハナムグリは、平塚市だけでなく、寒川町、厚木市、
海老名市でも発見され、広範囲に分布していることが明らかにな
りました。発見場所は、市街地や河川敷に限られ、自然度のより
高い丘陵地では未発見であることから、移入由来の個体群(外来
種)であることが強く示唆されます。

一方、シロテンハナムグリは、前種シラホシハナムグリと分布
域が重なるものの、競合により特に個体数を減らすような傾向は、
今のところは認められませんでした。



レッドロビンの樹液を食するシラホシハナムグリ

園児・卒園児が見つけたヨツモンカメノコハムシ

ヨツモンカメノコハムシは、2016年に初めて県内で確認され
た南方系種で、その後急速に分布拡大しました。

卒園児が発見した2018年の大磯町での記録と、園児が発見
した2019年の平岡幼稚園内での記録(Vol.13 図鑑コーナーに
も掲載)が各市町初記録として、『湘南地域におけるヨツモンカ
メノコハムシの記録』(岸, 2020)に収録されましたのでご報告
します。

【文献情報】

堀田佳之介・相澤永人・高橋和弘・岸 一弘, 2020. 平塚市および周辺部
におけるシラホシハナムグリ・シロテンハナムグリの分布状況. 神奈川虫報,
(203): 82-86.
岸 一弘, 2020. 湘南地域におけるヨツモンカメノコハムシの記録, 神奈川
虫報, (202): 75-76.



幼稚園内で見つかったヨツモンカメノコハムシ



クモの網の
『ネックレス』

第4回 心が育つ 幼児教育

露木先生編最終回



露木 和男 先生 Profile

1949年、福岡市生まれ。福岡教育大学卒業後、小学校教員を経て早稲田大学教育・総合科学学術院教授に就任。教員を目指す大学生に、理科の面白さや自然観察の楽しさを伝える。2016年秋学期早稲田大学ティーチングアワード総長賞受賞。2020年3月、定年により退職。

著書に、『小学校理科 授業の思想—授業者としての生き方を求めて—』（不昧堂出版）、『フィールドサイエンスのすすめ—自然で学び、科学の好きな子に育てる—』（早稲田大学出版部）、『やさしさ』の教育—センス・オブ・ワンダーを子どもたちに』（東洋館出版社）など多数。

「よくみる」ということ

文・写真 露木和男

私の長男が3歳か4歳の頃、湖の側で水面をずっと見ていました。私が不思議に思っ、長男の視線の先をみると、水面が太陽に照らされてキラキラと光っていたのです。息子はそのキラキラが美しく不思議でたまらなかったのでしょう。生き物が好きな子は、動きや生きている様子をじっと見ています。そして、巧みさや美しさ、不思議さを発見し、驚き感動するのです。

「よくみる」ことで新しい発見をし、「どうしてそうになっているのか」と問いをもつ子もいます。

「神秘さや不思議さに目を見張る感性」を「センス・オブ・ワンダー」と言います。子ども時代、このセンス・オブ・ワンダーに満ちた生活が、その子の生涯にわたる心の豊かさにつながっていくのだと、私は思っているのです。確かに子どもたちの心の中は大人から見てもわかりません。けれども、子どもたちの心の中で起きている「喜び」は共感できます。子どもにとってお母さん、お父さんが「わかってくれること」は、子どもにとってもますます大きな「喜び」になるのです。

生き物が媒介になり、親子、仲間同士が互いにつながり、感動を共有し共感できるということは、子どもの心の発達にとっても大切なことだと私は考えているのです。

そして、この生き物を「よくみる」ということは、実はもっと重要なことを含んでいます。それは、「よくみる」ことで「見えないものがみえてくる」ようになるということです。同じように、友だちのちよつとした表情の変化をみて、「どうしたの?」と声をかけられる「思いやり」の心も、この「よくみる」ことから培われていくのだと私は考えているのです。

露木先生編は今回で終わります。次号より、『自然は友だち』（神奈川新聞社）などの著書で知られる吉田文雄先生の連載が始まります。（編集部）

この3匹のオオスズメバチ。

このうち2つは体のどこかがおかしい...

正しいものがどれかわかるかな? (答えはP15)

知育
ゲーム
第4回

どれが正解でしょう?

出題：編集部 画：富岡誠一

①



②



③



絵画投稿
コーナー

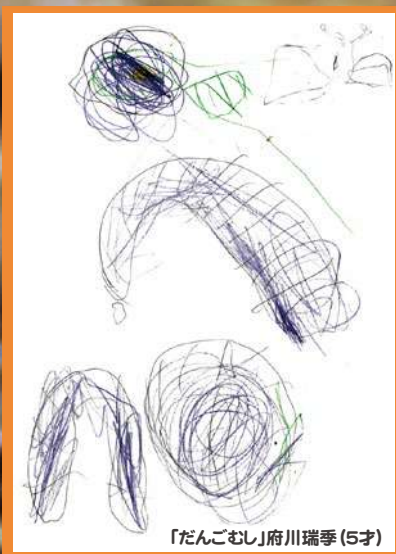
おえかきひろば



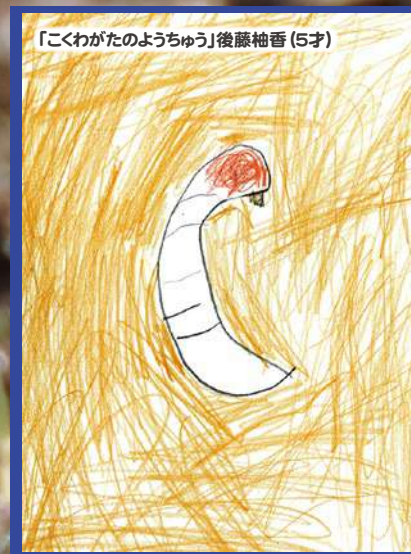
自然の楽しさや不思議を絵に描いてみんなに伝えてみよう！



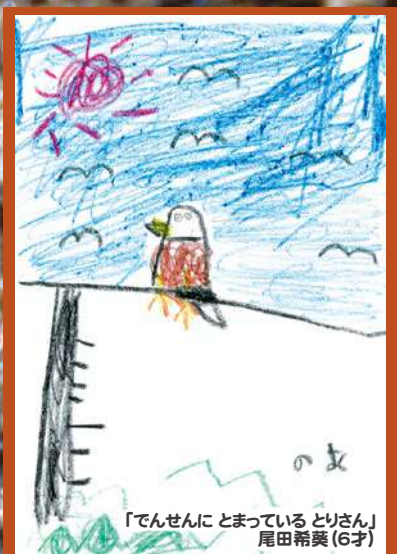
「きのこ」石井律有 (5才)



「だんごむし」府川瑞季 (5才)



「こくわがたのようちゅう」後藤柚香 (5才)



「でんせんにとまっているとりさん」
尾田希実 (6才)



「てんとうむしのなのはなおさんぽ」
後藤実結 (6才)



「ばったのかぞく」野口莉瑚 (4才)



「むしがいっぱい」
小宮悠太郎 (5才)



「メジロを見つけました!」田川楓 (5才)

生きものの絵画大募集!
A4・縦向きで
裏に題名・氏名・年齢を書いて
平岡幼稚園まで
※表紙絵の選考は未就学児が対象となります。

裏表紙写真：ヤコウチュウ（夜光虫）

海洋性のプランクトンで、大発生すると夜に光り輝いて見えます。

『湘南自然誌』 バックナンバー



① デジタル版をダウンロード

平岡幼稚園のHPからPDFがダウンロードできます。

<http://hiraoka-kg.com/>

② 公共施設で閲覧

以下の公共施設に所蔵されています。

【図書館】国立国会図書館（東京本館・関西館）、神奈川県立図書館、横浜市内中央図書館、平塚市中央図書館、平塚市南図書館、相模原市立図書館、茅ヶ崎市立図書館本館、大磯町立図書館、二宮町図書館、藤沢市総合図書館、藤沢市湘南大庭図書館、藤沢市辻堂図書館、横須賀市立中央図書館、座間市立図書館、鎌倉市図書館、横浜女子短期大学図書館、※厚木市立中央図書館、※綾瀬市立図書館
※印は一定期間の配架（蔵書登録なし）

【博物館等】県立生命の星・地球博物館、平塚市博物館、横須賀市自然・人文博物館、相模原市立博物館、あつぎ郷土博物館、大磯町郷土資料館、愛川町郷土資料館、箱根町立郷土資料館

【その他】神奈川県自然環境保全センター、神奈川県環境科学センター、県立秦野ビジターセンター、県立愛川ふれあいの村、秦野市立くずはの家、平塚市子育て支援センター、平塚市環境保全課、平塚市立岡崎公民館、金沢自然公園ののほな館、箱根町立森のふれあい館、はこね・おだわら昆虫館

③ 平岡幼稚園にて頒布

希望者には無料でひとり1部に限り、園にてお渡ししています。（※ 要事前連絡）

ikimono@hiraoka-kg.com

もしくは 0463-58-1188(担当：園長)まで

P13 知育ゲームのこたえ

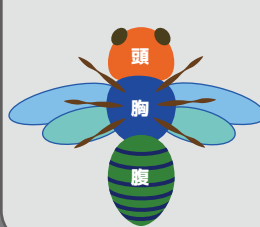
正解は②でした。

昆虫の体は、動きによって『頭』『胸』『腹』の3つの部分に分かれています。また、脚（あし）と翅（はね）は『胸』に付いています。

なので、①は脚（あし）が『腹』から出てしまっているの間違い。

③は、翅（はね）が『腹』から出てしまっているの間違いです。

昆虫の体の仕組み



②



画：富岡誠一

4 質の高い教育を
みんなに

11 住み続けられる
まちづくりを

14 海の豊かさを
守ろう

15 陸の豊かさも
守ろう

SDGsは、2015年に国連で採択された「持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals）」で、17の目標で構成されています。『湘南自然誌』は、そのうち4つの目標への取り組みとして発行しています。

発行元 平岡幼稚園の紹介

平塚市北部の伊勢原台地南端の麓に位置する我が園には、台地斜面から湧き水が染み出し、元々の表土も多く残されるなど、豊かな自然環境が保存されています。2009年より園地をビオトープにして、周囲に住む多様な生き物を呼び込みながら、子どもたちと一緒に地域の自然環境を保全するほか、生物の調査・研究活動も行っています。昭和42年開園、学園地総面積7,501㎡。

【受賞歴】

- 2012年 全国学校・園庭ビオトープコンクール2011「奨励賞」受賞
- 2014年 全国学校・園庭ビオトープコンクール2013「日本生態系協会賞」受賞
関東・水と緑のネットワーク拠点100選に「平岡幼稚園ビオトープ」が選定
- 2015年 生物多様性日本アワード 最終選考
- 2016年 全国学校・園庭ビオトープコンクール2015「日本生態系協会賞」受賞
- 2018年 全国学校・園庭ビオトープコンクール2017「日本生態系協会賞」受賞
- 2019年 「かながわ地球環境賞」受賞
- 2020年 全国学校・園庭ビオトープコンクール2019「日本生態系協会賞」受賞

【主な研究・発表実績】

研究テーマ	実施年	発表先
平塚市内のセミのぬけがら調査	2014～18年	平塚市博物館研究報告『自然と文化』(38～42)
神奈川県におけるハルゼミの分布調査	2015～19年	平塚市博物館研究報告『自然と文化』(39～43)
平塚市内のトンボ調査	2015～16年	湘南自然誌資料(38)：(共著)
その他	随時	湘南自然誌、Cicada、かまくらちょう等

訂正

P.11に「みんなで作る生きもの図鑑」についての訂正記事があります。

編集後記

今号の特集では創刊以来初めて海にスポットを当てることになりました。海の生物は、陸の動植物に慣れた目からすると、まるで架空の生物であるかのような奇妙な姿・生態を持つものが多いことに改めて気付かされました。少し目を通すだけでも、磯遊びに新たな楽しみが増える特集になったかと思えます。

教育つらみ露木先生編は今号で最終回となりました。長年教育に関わられてきた先生ならではの視点が新鮮でした。4回にわたり、ご寄稿ありがとうございました。次号からは愛川ふれあいの村学芸員で、自然にまつわる多数の著書がある吉田文雄先生に執筆をお願いしています。ご期待下さい。

最後に、図鑑コーナーの生きものの同定に協力して下さいました岸一弘氏と、齋藤和久氏、齋藤常富氏に感謝申し上げます。（富岡）